

# はってんウーマン

1983.6月  
No. 65

連絡所 津田尚美

編集人 葛西よう子

結婚して一ヶ月が経ちました。結婚生活の実感がピンと来ません。生活の環境も性格も思想も異なる二人が同じ屋根の下で暮らすことはこんなものという的確な表現をまだ見つける事は出来ません。

ただ男の人をおもてなしなと感心する事はありません。私自身かなり男性に対して偏見を持っていたことは否めず、事実で、このたびの結婚でそれがだいぶ是正されました。例えば私のように俗にいう「家庭的」で、女性を嫁にしようとする男性がいたことが才の発見です。私は独身時代から職場でも男女同権を主張していましたが、女子教育にも感心して、又料理も出来たし、家庭にちゃんと納まるタイプではないと公表してはばかりませんでした。My husbandはそんな私をしっかりと見ていたわけです。

はじめ最初に作った料理がセーブスとサラダで、このおかげでたくさんあり、たくさん食べてよねと言いたく、君が料理するとは思わなかった。毎日外食を覚悟して、たのしみで彼が返事をしてたのは、このおかげで、果敢と少しはましに。

それから男の人もおもてなしと自ら主張すれば、かなり理解が深まる。動いてくれることが才の発見です。私の場合は共働きだから主張しやすいのも確かです。同じ教員だから仕事の内容も知ってるし、お互い忙しい身だから帰りの遅い日曜出勤が多し、中々やはり家事を分担していかねばならぬ事は、彼は彼自身よく理解しています。だから私もやらせようという事を二つ要求します。説明するが面倒くさくてもやり方はちゃんと教えます。現在のMy husbandの役割は、いんちきの昇り降り、お風呂場の掃除、階段の下の方の掃除、時には部屋の電気掃除機がけ、そして最近、私の手が荒れだしたので、食器の洗い付けもしてくれるようになりました。

私は多分、世の中の事達の中ではかなり自由な方だと思えます。私の性格は外向的で、彼はどちらかといえば内向的です。結婚したとは言っても友人と一緒に出かけたり映画を見に行ったりする楽しみを減らすつもりはありません。又彼の趣味（例えばランの栽培）を奪うつもりもありません。つまりお互いの自由な楽しみを確保して、それの違う趣味には干渉しない事になります。だから私の方がよく外出しています。



す。でも結婚したからといって自分の生き方を変えられ  
る。という。私の友人の夫は妻に「時分に帰るまい」と言うそ  
うですが妻は家庭にいびりつけることが当然という社会におかし  
いと思います。私は御飯を炊くため結婚したのでもなければ  
夫の身の回りの世話をするために結婚したのでもありません  
が互いが人間として成長するために共同生活を通じ切磋琢磨  
磨きあうために結婚したのです。この事は結婚前に my love  
band にばちんと言いました。彼はそれに対して賛成も反対  
もせず、むしろ私が彼を生きかたをするとして、毎日生きてい  
くと輝いていけばいいと言いました。これが先んずか状態がい  
つ迄続くかわかりません。子供が出来れば状況は変わるであ  
らう。彼も私も考えや気持ちが変わることもありうるのです。か  
らう私も私は私の方針で結婚生活を送るつもりです。  
世の中の通念や制度にとらわれることなく……

※宗更月さん 五月五日に結婚されました。おめでとう。  
門下さん、宗更さんへ変わります。同じ学校で若く働く  
仲間同士で結婚です。二人の人間が、よかれに、一人一人の  
自分を救済助け合えるやうな、あつちの家が出来ました。  
BWの会員、みんなを頼ります。これは結婚報告  
です。ガバレノ、宗更さん。

「私の日々、私の日常に思ふこと」 森川一二美  
今、家族と暮らしている。食事は仕度から洗濯まで、なんでも  
しちゃう。という。私は会社から帰ると、食へて寝る。たぶんある  
家事は何もやらない。三つやう生活をしてると家族に依存  
しています。だんだん自分がだめになつていくような感じがする。  
もう私の年になると自立するのがあたりまえじゃあないか  
と思う。結婚するのだから、おのれに、いつまでも、こんな  
親がかりの生活を、と、思ふのか、と思ふ。  
一人が暮らしたいと思ふ。アバウトな暮らしだが、みんな家賃  
が高く、とても私の給料ではやていけそうもない。それでも  
やと、安所をみつけたら、親に言ったら、「だめだ」と言われ  
てしまった。同じ市内で別々に暮らすのはおかしいと言う。  
家族は一諸に住むものだ、と思つて、家にいる限り自立  
出来ないと、一人に任せて、思ふけれども、又一人が暮  
しても、自分の気持ちの持ち様を変えない限り、何も変えな  
い。これは、おのれ、と思ふのです。一時、東京でアルバイトを借  
りて、仕事もあるけれど、その頃、今より自立して、と、言  
えるのかどうか、親許で暮らして、自立して、人も、も  
し、問題は、どうやう表面的な事では、ない、と、思ふ。  
真の意味で自立して、人間を定義するとすれば、  
それは、他人と、良い関係を、持つ、人、という事、だろう。

経済的、云々、以前の話題に、(森瑞子 五月九日付  
朝日新聞より)

「良い関係」私は持てゐるの、よ、か、難し、と思ふ。  
私には、人との関係と作る、に、最も、必要、な、話、す、こ、と、と  
「書く」ことが、欠けてゐるの、です。まずは、これ、から、克服、し、て、い  
か、な、れば、な、り、ま、せん。私の、自立、は、さ、ち、や、う、め、い、と、い  
け、な、い、や、う、です。

(森川さん、ハロ、もう、一言)

なんでも、ない、だ、ら、う、これ、だけ、の、もの、を、書、く、の、に、随、分、と、時、間、が、か  
か、る、と、思、ひ、ま、す。思考、力、の、な、い、が、原因、で、は、な、い、か、女、の、し、つ、と、い  
ふ、毎、日、つ、づ、け、る、た、ら、は、書、く、習慣、が、つ、づ、か、な、い、か、今、所、  
白、い、部分、が、ま、だ、多、い、様、子、です。でも、私、に、と、て、BW、は、重、要、な、  
情報、源、だ、と、思、ふ。

◎ 考えてみまはう 「女と家族と老人と」

● BWの会員、津田尚美さん、から、編集、人、の、所、へ、来、た、手、紙、です。  
私の友人が東京で一人暮らしをしていますが、「お母さんが年寄り  
は、の、ど、ろ、か、も、一、人、暮、し、し、て、さ、う、さ、う、帰、ら、な、い、は、い、や、い、と、思、う  
長、崎、村、住、の、人、と、な、り、子、供、が、何、人、あ、る、つ、と、か、い、な、い、結、婚、し  
て、も、長、し、と、思、う。帰、り、た、ら、な、い、と、い、ふ、の、だ、ら、う、……結、婚、生  
活、が、ま、だ、自、分、も、努、力、さ、す、し、……」と、あ、り、ま、す。

門下(宗更)さんが、か、つ、て、「結婚は社会へのスポーツ」と言、た、の  
を、思、ひ、出、し、人、間、の、生、活、の、形、態、も、色、々、あ、る、な、い、と、思、ふ、す。  
● 最近一週間の新聞記事から その一

「熟年」一。番 (東京、渋谷、ダイヤサービス社) の電話より  
「とにかく、家、と、寂、し、さ、……、気が、狂、い、さ、う、な、る、時、が、あ、る、の、だ、と、い  
う、ま、ん、は、さ、う、言、う、ま、い、だ、う、ま、い、だ、う、ま、い、だ、う、お、前、な、ん、か  
要、ら、ん、と、い、う、だ、冗、談、と、わ、か、つ、て、さ、も、胸、が、ズ、ギ、ン、と、痛、み、ま、す、の  
女、に、と、つ、て、主、人、や、子、供、の、世、話、は、喜、び、だ、と、は、自、慢、に、な、る、こ、と、で、  
し、う、」 同、社、電、話、相、談、事、業、部、長、の、神、馬、美、佐、子、さ、ん、(46) の  
感想、四、十、代、は、夫、婦、が、も、う、一、度、見、つ、め、合、つ、て、オ、シ、の、ス、タ、ー、ト、を  
叩、く、人、生、の、重、要、な、節、目、で、す。男、と、女、夫、と、妻、と、は、何、が、話、し  
合、い、感、だ、り、し、な、ら、う、結、婚、も、う、一、度、二、人、で、再、婚、す、る、時、期、と、い、え  
る、ん、じ、や、な、い、で、は、な、い、か、何、か、あ、る、も、修、復、の、余、地、が、あ、る、四、十、代、に、そ  
れ、を、と、お、か、な、い、と、若、と、し、や、が、待、つ、ま、い、だ、う、す。こ、に、た、は、任、事、  
一、筋、妻、は、家、事、だ、け、さ、う、さ、う、に、自、立、出来、な、い、夫、婦、の、場、合、  
單身、赴、任、が、さ、う、堪、え、し、な、い、危、険、は、大、き、い、

● その二

住宅を購入したと、た、ん、の、転、勤、主、人、は、單身、赴、任、し、ま、し、た。受、験、に  
失敗、した、中、三、の、男、が、家、が、出来、な、い、と、う、理、由、で、な、さ、る、事、に、な、つ、た  
主、人、の、父、任、事、に、迷、い、場、が、あ、る、男、性、と、い、い、バ、ト、に、出、て、働、か、な、

(六月一日付朝日新聞「單身赴任」)



